

## 持続可能な社会の実現のために地域に根差した継続的な活動を支援 第17回「TOTO水環境基金」助成先団体を決定 ～国内5団体、海外7団体に計2,758万円を助成～

TOTO株式会社(本社:福岡県北九州市、社長:清田徳明)は、このたび第17回「TOTO水環境基金」の助成先団体を決定しました。

選考の結果、国内5団体、海外7団体の計12団体に計2,758万円を助成します。これにより2022年度は、既に活動中の8団体とあわせて、合計20団体のプロジェクトへの支援となります。今回の助成により、2005年の設立以来、のべ293団体に対して4億1,936万円の助成を行うことになり、活動地域は国内41都道府県、海外17カ国に及びます。

今年度、国内の生きもの調査や藻刈り活動に参加した方々からは「環境に対する意識を高めることができた」「お堀がもっときれいな水になるとよい」といった感想が寄せられ、また、海外では手洗い場を設置し、子ども達からは「手の洗い方が学べた」「いつ手を洗わなければいけないのか、習ったことを家の人にも伝えた」などの喜びの声が寄せられました。

TOTOは創立以来「水」に関わる事業を展開してきた企業として、2030年に「持続可能な社会」と「きれいで快適・健康な暮らし」の実現を目指す、新共通価値創造戦略 TOTO WILL2030のもと、国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」に貢献し、今後も世界で必要とされ続ける会社を目指します。



生き物調査や藻刈りに夢中な子ども達(島根県)



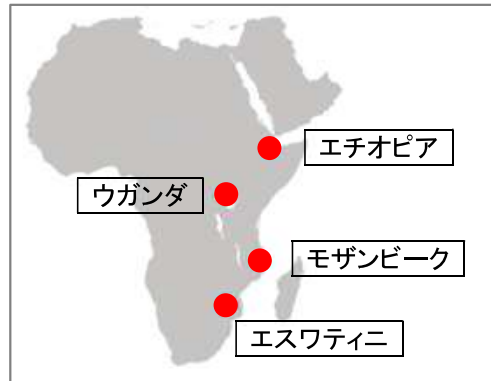
正しい手洗い方法を学ぶ生徒たち(スーダン)

### 「TOTO水環境基金」について

TOTOグループは、持続可能な社会の実現のためには、TOTOグループの果たすべき役割である節水技術の追求とともに、地域の事情に精通し、地域を支える団体の活動が欠かせないと考え、2005年度に「TOTO水環境基金」を設立し、水にかかわる環境活動に取り組む団体への助成を続けています。

「地域に根ざした活動となりえるか」「一過性の活動ではなく、継続性があるか」を中心に選考を行い、想いを同じくする団体とプロジェクトを実施しています。当基金は助成によって活動を後押しするだけでなく、最寄りの事業所のグループ社員が中心となって積極的にボランティア活動に参加する「協働」にも力を入れています。

## 第17回「TOTO水環境基金」助成プロジェクトの活動地



## 第17回「TOTO水環境基金」助成先団体一覧

	団体名・プロジェクト名	活動地域	活動内容	助成期間		
				2022年度	2023年度	2024年度
1	<p>団体名： 認定特定非営利活動法人 カラカネイトンボを守る会 あいあい自然ネットワーク</p> <p>プロジェクト名： あいの里でトンボを指標に豊かな水環境をつくろう！</p>	北海道	<p>地域の自然を子どもたちの故郷として残したいと強く思った地元の主婦と当時の理科研究部顧問（現理事長）により1997年に設立。札幌市北区あいの里地区を中心に、札幌唯一の湿原である篠路福移湿原の保全・保護活動をはじめ身近な自然を守る活動を行っている。</p> <p>あいの里・篠路福移地区の水環境を地域住民と共に継続して豊かにするため、地域の池沼の浚渫作業や湿原植物の植栽などを実施。また大学生がリーダーとなり、高校生と共にトンボを指標とした環境調査を行うことで作業効果の検証や後継者の育成へつなげていく。</p>	○	○	○

	団体名・プロジェクト名	活動地域	活動内容	助成期間		
				2022年度	2023年度	2024年度
2	団体名： 庄内自然博物園構想推進協議会  プロジェクト名： 市民参加型の湿地資源の活用と循環による持続的な湿地再生手法の検討	山形県	高館山、大山上池・下池、都沢湿地を自然学習のフィールドとして、子どもたちをはじめ市民みんなが自然との一体感を享受できるように、自然と触れ合う機会を創出することを狙いに2011年に設立。  交流拠点施設の鶴岡市自然学習交流館では、学習の機会を提供。マコモを始めとする湿地動植物を積極的に活用することで、湿地の開放水面を創出する。「湿地資源の活用と循環」をキーワードに家畜を飼育し、多様な世代が多様な目的で「楽しく」活動に参画し、持続可能な湿地再生活動を検討していく。	○	-	-
3	団体名： 小串ヤマグチサンショウウオ保護・保存会  プロジェクト名： ヤマグチサンショウウオの飼育・観察による自然環境教育	山口県	豊浦町小串の堂道川上流でカスミサンショウウオの卵塊を確認、準絶滅危惧種のため、棲息地の保護・保全活動を目的として有志で、2016年に小串カスミサンショウウオ保護・保存会を結成。2019年に本種は山口県南西部と大分県の一部棲息のヤマグチサンショウウオと判明し新種登録、環境省・山口県指定絶滅危惧Ⅱ類に指定され現団体名に改名。  小学校において、ヤマグチサンショウウオを教材とし、孵化・変態・成長過程の給餌・観察をする。さらには、生態系回復を目指して、絶滅確認地への放流を行い、自然環境教育を実践する。	○	-	-
4	団体名： 認定特定非営利活動法人 改革プロジェクト  プロジェクト名： 子どもの意欲を育む環境教育プログラムの展開	福岡県	海岸の漂着ゴミを拾い、裸足で走れる砂浜を取り戻すことを目的に2010年に設立。  未来を担う子供たちに向けて、海との強い結びつきを感じ心が動く体験として、子供を対象にした環境意欲を育むことを目的に2つのプログラム「夏の課外授業(海の自由研究)」「子供と一緒に巡る冒険ごみ拾い(ADVENTURE Lite)」を実施する。	○	○	○

	団体名・プロジェクト名	活動地域	活動内容	助成期間		
				2022年度	2023年度	2024年度
5	<p>団体名： 一般社団法人 ふくおかFUN</p> <p>プロジェクト名： 「海を元気にする海草」アマモ場再生・造成プロジェクト</p>	福岡県	<p>博多湾は海に恵まれた地域であるが、河川からの生活排水の流入による有機汚濁や赤潮の発生等、生物の命を脅かす課題を抱えている。福岡の海の魅力や課題、自然の不思議・素晴らしさ・楽しさを一人でも多くの方に伝えて守っていくことを目的に2014年に設立。藻場の減少により失われつつある生物多様性を守るため、アマモの再生・造成活動を行う。</p> <p>浅海域の磯焼けや地球温暖化など様々な海の問題解決を目指すとともに、地域社会に向けた発信・啓発を行い豊かな海づくりに繋げる。</p>	○	○	○
6	<p>団体名： 公益社団法人 アジア協会アジア友の会</p> <p>プロジェクト名： 住民主体のごみ管理～クリーンでグリーンな地域とブルーな水環境のために</p>	フィリピン	<p>1979年に活動をスタートした、アジアに”生命の水”を贈る国際協力NGO団体。現地提携団体は現在18カ国70地域に広がり、ネットワークで連携しながら、地域ごとの実情に根ざした活動で人々の自立を目指している。</p> <p>農村地域ではゴミ管理が整っておらず、海や川などの水辺をゴミ捨て場にしている地域が多い。ゴミ箱に捨てる習慣を養い、プラスチックゴミは分別してリサイクルする仕組みを構築する。また、台所ゴミを堆肥化するなど有機性ゴミを減量し水環境を改善、併せて意識啓発もを行い、地域の活動をさらに促進する。</p>	○	—	—

	団体名・プロジェクト名	活動地域	活動内容	助成期間		
				2022年度	2023年度	2024年度
7	団体名： 公益財団法人 国際開発救援財団  プロジェクト名： 山岳少数民族の衛生施設「マザーズ・スペース」の設置	ベトナム	開発途上国において子どもの福祉を中心とした住民の生活環境の向上及び地域開発の推進に資するための援助事業を実施。  ベトナム国内最貧省の一つである中部高原地域のコントウム省において、家庭および集落の衛生環境が劣悪であるという課題を改善すべく、トイレ、洗濯、水浴びができる住民手作りの多用途施設「マザーズ・スペース」の設置を省内2郡で推進。完成後、使用に関する研修を行い、衛生行動の定着を図る。	○	—	—
8	団体名： World Assistance for Cambodia and Japan Relief for Cambodia  プロジェクト名： カンボジア農村地域の小中学校での水環境整備と環境教育	カンボジア	カンボジア地方の貧しい子どもや人々のため、教育・保健衛生・農村開発・技術分野を援助している非営利団体組織。  農村地域では、上下水道の整備はされておらず、井戸や雨水・溜池等を使用している。小中学校において、新規の井戸やトイレ、貯水タンクの設置・修理を行う。また、現地教師と協同で環境教育を実施。栄養価の高いモリンガの苗木づくりやその植樹活動等を行うことにより、CO <sub>2</sub> 削減を図り、環境を大切にすることを狙いとする。	○	—	—
9	団体名： 認定特定非営利活動法人 ホープ・インターナショナル開発機構  プロジェクト名： わたしたちが伝える！「トイレと健康」	エチオピア	2001年に起きたインド大地震の国際災害緊急支援をきっかけに設立。開発途上国の人々を支援する国際協力団体として、コミュニティー開発支援事業などの国際開発事業、大災害緊急支援事業を展開している。  小学校のトイレは、足場が悪い、便槽がいっぱいである等、環境が劣悪で安全に利用できず、野外排泄が多い。保護者や教師、住民たちの建設作業協力を得てトイレと手洗い場を設置。教師に衛生教育を実施し、教師がトイレの管理や手洗いを含めた衛生教育を児童に行う。また、児童が中心となって啓発ポスターなど作成し、啓発活動を持続的に発展させる。	○	—	—

	団体名・プロジェクト名	活動地域	活動内容	助成期間		
				2022年度	2023年度	2024年度
10	団体名： 特定非営利活動法人 コンフロントワールド  プロジェクト名： ウガンダでのトイレ建設、貯水タンク建設、石鹼生産	ウガンダ	「不条理の無い世界の実現」を目的に2018年設立した国際協力NGO団体。「紛争・貧困などによって困難な状況にある人々の自律を後押しする」「情報と選択肢を届け、人々の社会貢献を後押しする」をミッションに、ウガンダでの衛生環境改善や国内での啓発活動等を行っている。  農村部のブタンバラ県では安全な水に安易にアクセスできず、適切な手洗いが行われていない。水汲みを行うため、学校に通えない子どもが存在する。トイレや貯水タンク・浄水フィルターの建設、石鹼生産施設など、インフラを整備し、現地コミュニティへの衛生指導を実施することにより、水や石鹼・手洗いへのアクセスを改善する。	○	—	—
11	団体名： 一般社団法人 モザンビークのいのちをつなぐ会  プロジェクト名： モザンビーク共和国・紛争避難施設の水環境整備活動	モザンビーク	環境問題と貧困問題のジレンマ、先進国と後進国の都合論の不調和を解消すべく、2013年に設立。国際支援が行き届かず、教育や衛生問題、貧困の連鎖をはじめ深刻な問題が山積しているモザンビーク北部において、貧困層の住民一人一人が自らの力で解決できるようにサポートしている。  ペンバ避難民の家に水道を敷設、ナンプラ寺小屋に深井戸と貯水タンクを整備する。紛争避難民や疎開する子どもたち、およびスラム地区の住民に対して、安全な水のアクセスを可能とし、健康が阻害されない環境を整え、住民のいのちを守る。	○	—	—

	団体名・プロジェクト名	活動地域	活動内容	助成期間		
				2022年度	2023年度	2024年度
12	団体名： 認定特定非営利活動法人 ウォーターエイドジャパン  プロジェクト名： エスワティニ王国マンジニ県における水・衛生プロジェクト	エスワティニ	「2030年までにすべての人がすべての場所で清潔な水とトイレを利用し、衛生習慣を実践できること」をビジョンとし、日本法人として2013年に設立。途上国での水・衛生プロジェクトの実施、国内外での政策提言、学校との連携による開発教育・各種イベントを通じた関心喚起に取り組んでいる。  農村部では、給水施設の維持管理が適切に実施されておらず気候変動の影響もあり、清潔な水が得られない。現地の地形・状況に最適な給水施設を設置、維持管理のしくみを構築する。また、参加型衛生トレーニングを実施、住民自身でトイレを設置・使用するよう促進し、人々が健康な生活を送れることを目指す。	○	—	—

**「TOTO水環境基金」ホームページ**  
<https://jp.toto.com/company/csr/environment/mizukikin/>

ウェブサイトでは、各団体の活動内容について写真を交えて紹介。  
 活動に携わった方や現地の皆さんの喜びの声も紹介し、  
 より具体的に活動の目的や意味・成果をお伝えしています。

## 新共通価値創造戦略 TOTO WILL2030

### きれい快適



### 環境



### 人とのつながり



「環境・社会的価値」と「経済価値」を同時に実現する新共通価値創造戦略 TOTO WILL2030では、「きれい快適」「環境」「人とのつながり」を取り組むべき重要課題「マテリアリティ」として経営とCSRの一体化に取り組み、国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」にも貢献していきます。

<https://jp.toto.com/company/ir/individual/vision/index.htm>

「World Assistance for Cambodia and Japan Relief for Cambodia」の助成辞退により、  
上記リリース内容から以下が変更になっております。(2022年3月11日現在)

- 第17回「TOTO水環境基金」における海外助成先団体数: 7団体→6団体
- 第17回「TOTO水環境基金」における助成金額: 2,758万円→2,478万円
- 第17回「TOTO水環境基金」における助成先団体数計: 12団体→11団体
- 22年度の助成先プロジェクト数(既に活動中の8団体をあわせたもの): 合計20団体→合計19団体
- 設立以来、のべ助成先団体数: 293団体→292団体
- 設立以来、のべ助成金額: 4億1,936万円→4億1,656万円